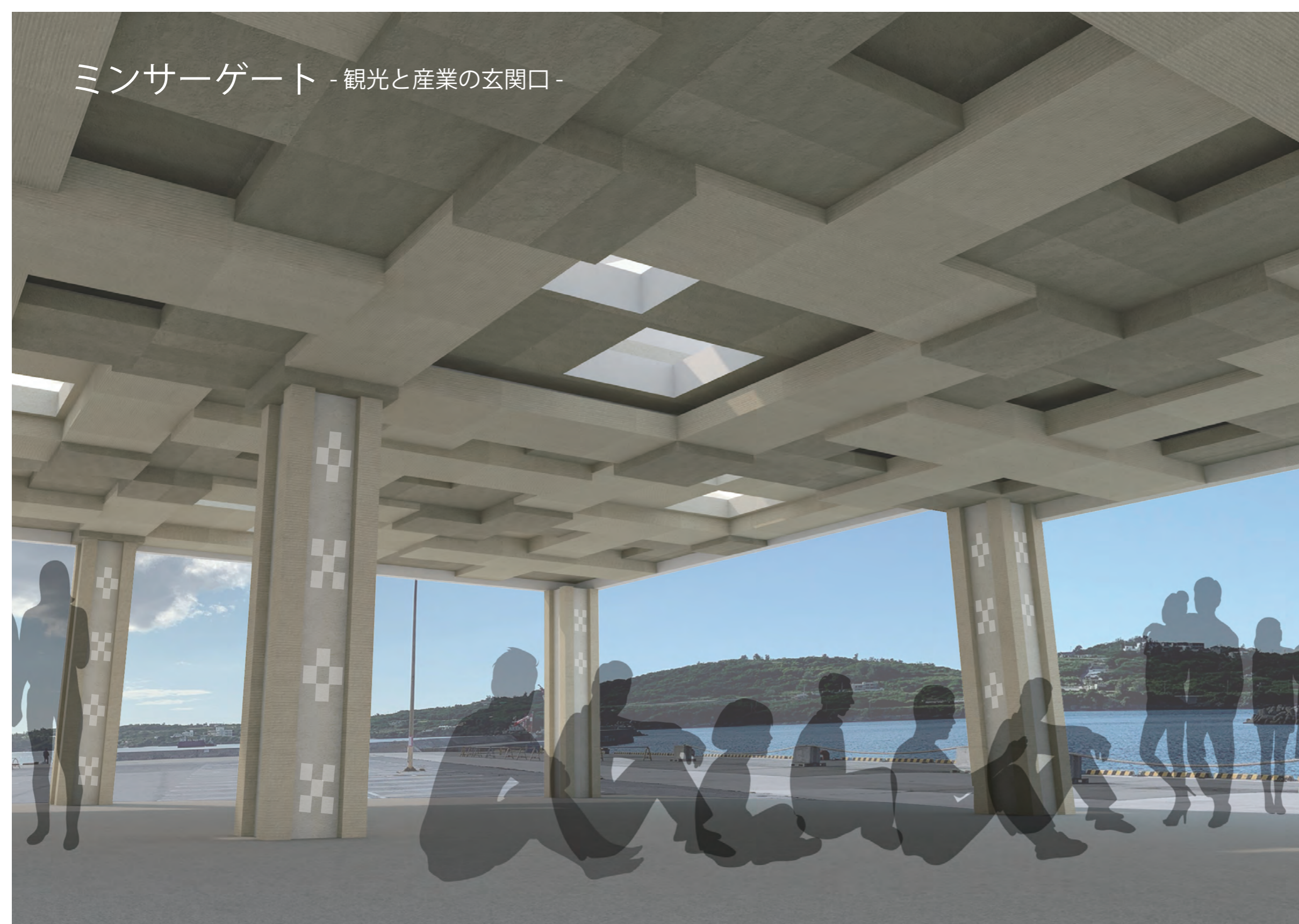


ミンサーゲート - 観光と産業の玄関口 -



Prologue

本部港は、国際クルーズの拠点であり、物流の玄関口でもある。

ヒトとモノが行き交うこの場所は、観光拠点と産業拠点の二面性をもっている。

観光と産業のプラットフォームとして、沖縄らしい佇まいで人々を招き入れる屋根を提案する。

沖縄らしさを広く知ってもらい、来訪する人々や沖縄全土の末永い幸せを願う。

Concept

ミンサー
「いつ（五つ）の世（四つ）までも、末永く ...」

いつの世までも末永い幸せを願い、五つの■と四つの■で構成された縞模様を、幾何学的に具現化し建築として表現する。

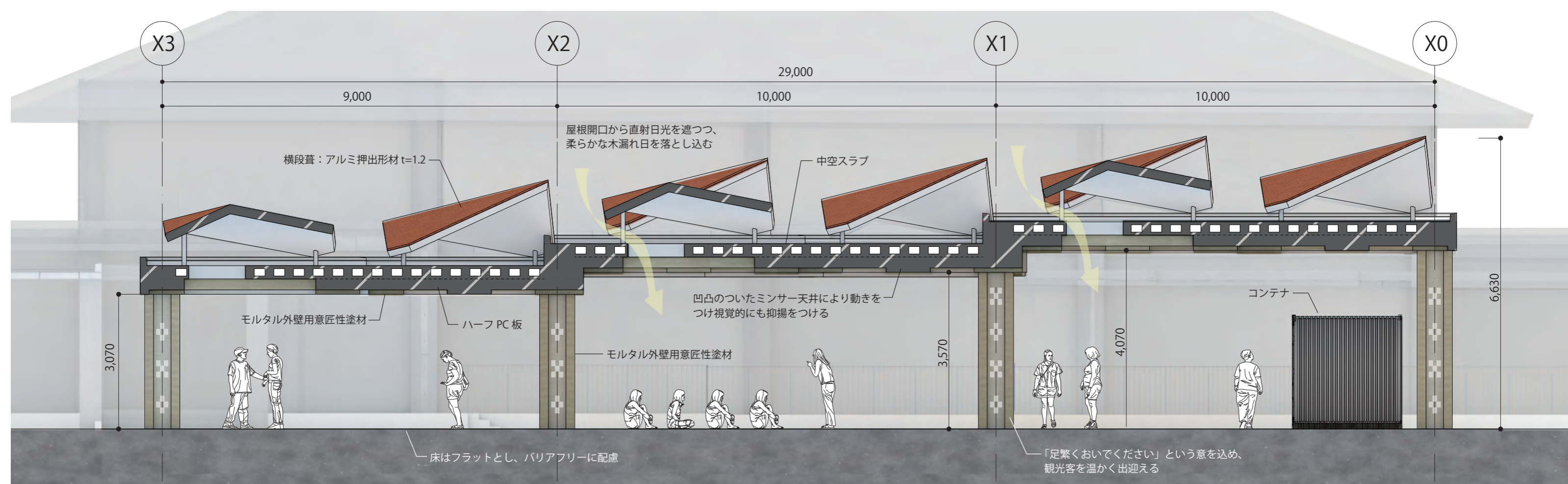


「足しげくおいでください」

「足しげく」の思いを込めた、短い横縞を連続させる「ヤシラミ柄」は柱形状で表現



たくさんの来訪者と貨物が行き交い続け、沖縄のさらなる発展と成長を期待する。



観光と産業の玄関口

産業拠点として荷解きを快適におこなえる十分なスペースと、観光客を歓迎・歓送する、観光拠点を併せ持ち、来訪者や利用者に沖縄の文化や産業を感じ取ってもらえるような施設を目指す。ミルサーの意味を広く知ってもらい、来訪する人々や沖縄全土の末永い幸せを願う。



沖縄らしい、地に馴染む仕上げ

紫外線による塗膜の劣化や退色がしにくく、汚れにも強い高耐久性タイプの「モルタル外壁用意匠性塗材」とすることで、沖縄の気候に対応できる仕上げとする。

また、荷重を考慮し、赤瓦風の横段葺アルミ押出形材とした屋根をリズムよく配置することで、隣地建物との一体感を生み、クルーズ船からの眺望においても沖縄を感受できるものとする。



ハーフ PC ボイドスラブ工法の提案

屋根スラブをボイドスラブとすることで、柱を極力少なくし開放的なスペースを確保する。また、小梁をなくすることができるため、意匠性の高い天井も実現可能であると考えられる。性能面において、通常スラブよりも軽量で、剛性・強度に優れている。これらのことから当工法を提案する。

ハーフ PCa 化による合理的な施工

ハーフ PC により型枠工事等の省力化と工期短縮を図る。また、品質管理の向上や製造過程でのかぶり厚やコンクリート品質の適正化を図る。

